



森林ふれあい情報

令和6年1月 第64号

林野庁中部森林管理局
木曽森林ふれあい推進センター
〒397-0001
長野県木曽郡木曽町福島5473-8
TEL: 0264(22)2122
E-mail: kiso-fureai@maff.go.jp

この度の能登半島地震被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧・復興を願っております。

令和6年を迎え寒さが一段と厳しい時期となり体調管理には十分注意が必要です。令和5年の秋はコロナ過の影響で規模縮小や中止となっていたイベントが通常の形で開催されるようになり、森林と親しむ機会が増えました。

「山と緑の協力隊」赤沢プログラム

9月23・24日の2日間、木曽郡上松町の小川入国有林において、(特非)地球緑化センターが主催する「山と緑の協力隊」赤沢プログラムが開催され、16名のボランティアが参加しました。

この活動は、「木曽ヒノキの森づくり」をテーマにヒノキ人工林の森林整備を実施するもので、春と秋の2回行われています。

今回は春の作業と同様に除伐作業を行い、1日目は木曽森林管理署職員の指導により、2日目は当センター職員2名の指導により作業を行いました。参加者の半数が初参加で、そのうち4名が大学生でしたが作業2日目ということで、参加者からは1日目より上手にできたという意見も聞かれました。

作業終了後は、伊勢神宮において20年に一度行われる式年遷宮の行事として平成17年に伐採された御神木の切り株を見学し全ての日程を終えました。

森林管理の必要性・森の楽しさを伝えられる本プログラムに、引き続き協力していく考えです。



協力して作業を行う参加者

木曽郡植樹祭

10月12日に木曽郡上松町小川の大井野共有林において、長野県木曽地域振興局等が主催する「木曽郡植樹祭」がコロナ過の影響もあり5年ぶりに開催されました。この植樹祭は、緑化運動の一環として森林整備の一層の推進と意識の高揚を図ることを目的に、県内外の来賓や林業関係者、木曽川下流域の水道企業団や上松小学校の「みどりの小年団」等総勢約120名が参加し植・育樹作業を行いました。

式典では、来賓からの祝辞の後「みどりの少年団」代表者から「みどりの宣言」が発表され、式典後の植樹作業では式典会場内において来賓や主催者・後援者の手により上松町の町花である「オオヤマレンゲ」3本を植樹し、記念標柱を建立しました。



テープ巻きを行う参加者

育樹作業は、平成7年の県植樹祭で植えたヒノキ林（29年生）において、ツキノワグマの皮ハギ防止のためのテープ巻きを行いました。

テープ巻きを初めて行う参加者も多いようでしたが、作業を続けるうちに徐々に慣れ、予定した作業は無事に終わることができました。

令和5年度森林ボランティア・NPO 連携推進会議

10月25日・26日の2日間、塩尻市の長野県林業総合センターにおいて、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」がボランティア団体代表及び木曽森林ふれあい推進センターによる実行委員会主催により開催されました。

この会議は、中部森林管理局管内の森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じて森林ボランティア団体・NPO等の更なる資質の向上と連携強化を図ること等を目的に毎年開催されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止や規模を縮小しての開催が続き、4年ぶりに2日間にわたる開催となりました。

今年は、森林ボランティア団体等の6団体と局署職員併せて30名が参加しました。

1日目は長野県林業総合センターの取組について説明を受けた後、「これからの連携推進会議について」をテーマに会議参加者が5班に分かれて意見交換を行い、どの班からも本会議を継続していく必要があるとの発表がされ、一般の方に森林づくり等に関心を持ってもらえる活動を行ってはどうかという意見も出されました。

2日目は、同センター内でスマートフォンのアプリを用いた木材の強度試験装置や森林整備・森林環境教育に関する貴重な資料や現地を見学し連携会議は終了しました。

2日間を通して参加者の見識を広めることができ、充実した連携・交流の場となりました。



参加者全員で記念撮影

パズルラリーを活用した交通安全教室(王滝小学校)

10月25日に木曽町内の道路において、パズルラリーを活用した交通安全教室が開催されました。

この教室は、王滝村の王滝小学校児童が信号機のある横断歩道や歩行者用の歩道を歩いて安全な道路の歩き方を実際に体験しながら交通安全を身につけることを目的に、児童10名が参加して開かれたものです。

この交通安全教室の開催にあたり、王滝小学校の先生から依頼があり木曽森林ふれあい推進センターで令和2年から行っている「御嶽山麓トレッキングパズルラリー」のピースを提供し、①白線の内側を歩く②横断歩道は「手を上げて」「右左右を確認」して渡る③歩行者専用の歩道を（車道に出ないように）歩く等の指導ポイントを通過するごとにパズルピースを渡すこととしました。



横断歩道を渡る児童

地元観光スポットの山村代官屋敷前の交差点をスタートした児童たちは、4つの地点でそれぞれのポイントをクリアするごとにパズルピースを受け取り、ゴール地点の木曽町文化交流センターでパズルピースを貼り合わせる板と台座を児童全員が受け取ることができました。

パズルラリーのピースが思いもよらない形で児童の交通安全に役立ちました。

ニホンジカのライトセンサス調査

11月21日に木曽郡木曽町の林道木曽駒山麓線、黒石併用林道の6.5km区間において、長野県木曽地域振興局林務課および木曽森林管理署の協力を得て、ニホンジカの生息状況確認のためのライトセンサス調査を実施しました。

この調査は、夜間、ライトで照射し、反射で目が光る特性と夜間警戒心が低くなる特性を生かした調査方法で、当センターでは平成29年度から継続して木曽町と王滝村の2箇所で行っています。

この日の調査では、カモシカやタヌキは確認しましたがニホンジカは確認できませんでした。



撮影された野生動物

木曽地域ではニホンジカによる森林被害はまだ甚大ではありませんが、センサーカメラによる調査も含め今後も生息状況調査を継続して実施し、調査結果を関係機関等に情報共有してニホンジカによる被害防止に繋げていきたいと考えています。

木曽ヒノキの年代推定(古根株サンプル採取)

12月6日・7日の2日間、木曽郡上松町の小川入国有林において、木曽ヒノキの古い根株の年代推定を行うために、2つの根株から木片サンプルを採取しました。

この取組みは、(国研)森林機構 森林総合研究所と協働で、木曽ヒノキの古い根株の木片サンプルを「酸素同位体比分析」で分析し、採取した根株の生育していた時代や樹齢を解明することで古代の林分構造を推定しようとするもので、木曽森林管理署職員の協力によりチェーンソーも利用しながら慎重にサンプル採取を行いました。

採取したサンプルは、(国研)森林機構 森林総合研究所へ運搬し分析される予定ですが、これまで平成30年度と令和2年度に採取された2つの古い根株の分析結果からは、1000年程度と600年程度生きていたとする推定結果が得られています。今回を含めて今後さらに多くの根株からサンプルを採取し、木曽ヒノキの年代測定を進めることで、古代の林分構造をより明らかにし天然林の育成整備や天然林更新技術の検討に資するとともに、天然ヒノキなどより構成されている木曽地方の温帯性針葉樹林を保存・復元するために設定した「木曽悠久の森」のPRにも活用していく考えです。



サンプル採取する古根株



採取したサンプル